

令和4年度
(2022年度)

観光にぎわい部の取り組み実績

<部長の方針・考え方>

部内全職員が仕事への「意味」を見出し、力を合わせて取り組めるよう2つのことに取り組みます。

1. 「風通しの良い職場」をつくる／2. 「共感（エンバシー）得られる対話」を意識付ける

重点的な取り組み：戦略的な観光施策の展開

2025年大阪・関西万博に向け、歴史・文化・芸術・スポーツ・食といった本市の観光資源を活用した施策を戦略的に展開し、にぎわいの創出につなげます。



◆市駅周辺で生まれつつある「活性化要素」を生かす

15周年を迎えた「枚方宿くらわんか五六市」は1日約8000人が訪れるまちなか市として人気定着しています。そうした中、「淀川の舟運」は枚方～大阪間の定期就航が実現し、淀川大堰の新たな水門整備に着手されています。また、昨年オープンした総合文化芸術センターでは音楽や演劇、アートで連日多くの人々が訪れ、令和6年には枚方市駅前に新たなホテルも完成予定です。3年後の万博を前に、枚方宿界隈や枚方市駅周辺のにぎわいを活性化させる要素が生まれつつあり、今後の観光施策の展開に当たってはこれらを積極的に生かす取り組みを進めます。

◆起点は枚方宿 「観光をデザイン」する

上記のことを踏まえ、現在の枚方市をかたちづかった歴史を持つ「枚方宿地区」を起点とし、枚方市駅～淀川河川エリア、枚方公園駅までの地域を「面」で捉えることで、万博を見据えたにぎわいの広がり生まれるよう、観光を「デザインする」視点で取り組みます。その中でさらなるツーリズムの開発を進めるため、民間事業者や淀川上流域自治体との連携も深めながら、舟運や河川公園を活用した実証実験を積極的に行います。

◆拠点整備と観光経営体の確立へ

枚方宿を起点とした観光施策を推し進めるためにも、枚方宿のほぼ中心にあり淀川河川公園にも近い幼児療育園跡地の活用については、新たなにぎわい創出の拠点として民設民営での整備に取り組み、民間主導による持続的な運営を視野に地域経済の活性化を進めます。また、戦略的な観光施策を進めるためにも民間主導の観光経営体の確立に向け、具体的取り組みを推進。文化観光協会の役割・連携についても検討していきます。

◆郷土愛育むコンテンツの創造

市外から人を呼び込むことはもちろん、市民が誇りを持って枚方の魅力を発信することにつながる取り組みを進めます。市の花「菊」や「七夕」を活用するとともに、食や楽しみも含めた新たな観光資源の発掘にも着手し、さらなる観光コンテンツの創造につなげます。

<p style="text-align: center;">実 績</p>	<p>① 令和7年の大阪・関西万博とその後を見据えた枚方市観光ロードマップを令和4年10月に策定・公開。</p> <p>②・民間事業者主催による「よどがわアクティビティくらわんか」の立ち上げと継続した開催。 <開催月：5月、9月、3月 参加人数：1,144人></p> <ul style="list-style-type: none"> ・淀川上流自治体（宇治市、京都市伏見区、八幡市）と連携したEポート川下り&とっておき体験に参画。 ・淀川河川事務所との共催で堤防活用の可能性を探る実証イベント「リバーテラスくらわんか」の実施。 <開催月：11月 参加人数：延べ3,000人> ・枚方文化観光協会、国、府、民間事業者主催の舟運等の各種実証実験に連携・協力。 <p>③ 幼児療育園跡地の活用に向け、公募型サウンディング調査を実施。</p> <p>④・令和5年3月末「一般社団法人くらわんか観光マネジメント」が候補DMOとして登録。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・枚方文化観光協会にかかる活動補助金の見直しを実施。 <p>⑤・「七夕笹飾り」を民間事業者との連携により実施するとともに、ひらかたパーク園内での七夕飾りと連動した周知。 <参加人数：約400人></p> <ul style="list-style-type: none"> ・樟葉駅前広場での七夕関連イベントの実施に協力。 ・市の花「菊」についてひらかたパーク主催で「新・菊人形展」を総合文化芸術センターにおいて実施。 ・友好都市・名護市との連携によるビジネスマッチングで枚方市内のレストランで名護市の希少価値の高い特産品や枚方市産の野菜などを使用した友好都市ならではのコース料理の提供が実現。
<p style="text-align: center;">説 明</p>	<p>① 観光施策を戦略的に展開するため、枚方宿を起点に、枚方市駅、淀川河川エリア、枚方公園駅を面で捉えた地域活性化を核としながら、市内に点在する地域資源についても素材として活用していく方針を枚方市観光ロードマップとして策定し公表しました。</p> <p>② 観光ロードマップの方針に則り、民間事業者が持続的に事業展開できるような仕組みづくりを目指し、各種イベント・実証実験において方向性の共有・企画・関係者協議・会場使用の調整等の連携・協力を行いました。</p> <p>令和4年度は、淀川河川公園枚方地区において5月に初の実証実験として水辺アクティビティイベント「よどがわアクティビティくらわんか」を開催。その後もグルメやワークショップなど複合コンテンツと組み合わせることで参加者の滞在時間を向上させることを目指し、9月には「ひらかたファミリーフェスタ」内で、3月には「ロハスパーク枚方」を新たに誘致しコラボして実施しました。また、10月に淀川上流沿川自治体である宇治市・京都市（伏見区）、八幡市と連携しEポート川下りと街での観光体験メニューを組み合わせたイベントを実施し新たな観光商品の開発に取り組みました。11月には、上記アクティビティなどの拠点づくりを目指し、堤防の活用可能性について検証するため、淀川河川事務所と連携して実証イベント「リバーテラスくらわんか」を実施しました。このほか、観光庁の補助金を活用した枚方文化観光協会により淀川舟</p>

運を生かした実証イベント「枚方宿アートくらわんかフェス」が11月に開催されたほか、近畿地方整備局が事務局を担う淀川舟運活性化協議会等の実証実験についても枚方宿鍵屋資料館をはじめとした枚方の地域資源の活用について連携・協力しました。

令和5年度については、令和4年度の実証実験・イベントで把握したニーズや改善点を踏まえながら、引き続き、枚方観光の顔となる淀川舟運のコンテンツ充実や、淀川河川エリアを活用したアウトドア・アクティビティのさらなる拡充・活性化に取り組みます。

- ③ 観光ロードマップにおいて、幼児療育園跡地の活用については、街道を人が行き交うきっかけとなるような「枚方宿地域の賑わい創出の拠点」を目指す方針を示し、令和4年度においては、民間活力を最大限に活用するとともに公共施設マネジメント推進の観点から、事業者公募による民設民営手法による整備を目指し、民間事業者が考える土地活用のアイデアや参加しやすい事業条件等を把握するため、公募型サウンディング調査を実施しました。この調査結果を踏まえ、令和5年度においても引き続き整備に向けて取り組みます。

- ④ 令和4年度についてはDMOの設立に向けて取り組むとともに、枚方文化観光協会及びDMOについて、観光施策の担い手としてそれぞれの役割を明確化することで、相互に連携・協力しながら観光施策を戦略的に推進できる体制の構築を進めました。

枚方文化観光協会については、歴史や文化・伝承といった本市観光施策の「礎」となる地域資源の保存や継承・活用に根差した事業展開を求めるものとし、また、観光地域づくり法人（DMO）については、これら地域資源を観光事業の題材に、経営視点を持って地域経済の活性化につなげていく事業プロデュースを行うものとし、

令和5年度については、新たな体制のもと、本市の観光施策を担う多様な関係団体・事業者がそれぞれの強みを生かし、枚方のポテンシャルを最大限に発揮できるよう連携して取り組みます。

- ⑤ 観光ロードマップでは、枚方ならではの地域資源を生かし、枚方をまるごと楽しむ観光を「くらわんかツーリズム」として発信していくことを掲げています。令和4年度は、7月に市主催の七夕イベント「七夕笹飾り」を民間事業者との連携で開催したほか、ひらかたパーク園内での笹飾りで七夕発信やイベント周知で連携しました。また、同月、くずはモール主催による樟葉駅前広場を活用した「くずは七夕&クラフトビールまつり」を共に企画し開催に協力しました。市の花「菊」については、ひらかたパーク主催で「ひらパー×ネイキッド×枚方市 新菊人形展」として、プロジェクションマッピングによる演出などを取り入れた新たな菊人形イベントが開催されました。また、くずはモール主催の「くずは秋の芸術祭」の企画、開催に協力し、市の花「菊」を生かしたワークショップなどが実施されました。このほか、豊富な一次産業を有する友好都市とのコラボによる特産品開発として、沖縄県名護市・名護市商工会との連携によるビジネスマッチングが実現し、枚方市内のレストランにおいて、希

	<p>少価値が高く、沖縄県外へ出ることが稀な純血アグー豚や枚方市産の野菜などを使用したコース料理の実現に至りました。</p> <p>令和5年度においても、引き続き、地域資源を磨き上げ、観光コンテンツの開発、発信に取り組んでいきます。</p>
--	--

重点的な取り組み：文化芸術活動のさらなる発展とにぎわいの創出

◆総合文化芸術センターから「文化芸術のまち」を発信

魅力的で多彩な事業を実施し、市内外から多くの人々が来館する施設を目指します。また、枚方市駅周辺のにぎわい創出に向け、周辺商業施設等との業務提携による公演チケット提示割引などを継続します。取扱店舗の拡大や新たな事業者との連携についても検討を進めます。



◆文化芸術活動の「裾野」を拡大

市民総合文化祭（合唱や吹奏楽、演劇や人形劇など）や市展（公募選抜型美術工芸展）を昨年引き続き開催します。小学校へのアウトリーチや全市立中学校1年生を対象とした大阪フィルハーモニー交響楽団によるフルオーケストラ鑑賞会などを教育委員会と連携して実施します。

実績	<p>総合文化芸術センターにおいて、魅力的で多彩なジャンルの事業を年間100本程度実施したことにより、賑わいを創出するとともに、市民の発表機会の提供と、教育委員会と連携した事業を実施することにより、本市の文化芸術の裾野の拡大を推進。</p> <p>① 市民総合文化祭2022を開催。 <参加人数：6,545人></p> <p>② 第2回枚方市展を開催。 <応募作品数：368点、入選作品数：180点></p> <p>③ 小学校アウトリーチ事業を実施。 <参加人数：3,125人></p> <p>④ 中学校オーケストラ鑑賞事業を実施。 <参加人数：3,237人></p> <p>⑤ ひらかたジュニアブラスバンド事業を実施。</p>
説明	<p>① 市民の日ごろの文化芸術活動の発表機会の提供とジャンルを超えた交流や賑わいの創出を目的に、市民総合文化祭を8月27日から9月4日に開催しました。合唱や吹奏楽をはじめ、人形劇、演劇、クラシック音楽、三曲、舞踊、落語、アラカルトの舞台部門と、絵画・書道・写真の展示部門、短歌・俳句部門の全14ジャンルの発表を行いました。</p> <p>② 公募選抜美術工芸展である「枚方市展」を令和5年1月6日から11日に開催しました。日本画、洋画・版画、書、彫塑・立体、工芸、写真の6部門に市内外から368点の応募があり、入選作品180点を展示しました。</p> <p>③ 市立27小学校の5・6年生を対象に、枚方市アーティストバンクに登録している本市ゆかりの若手アーティストを小学校へ派遣し、音楽や舞踊（ダンス）公演の鑑賞・体験を通して、子どもたちに多様な気づきの機会を提供しました。</p>

	<p>④ 全19市立中学校の1年生を対象とした大阪フィルハーモニー交響楽団によるフルオーケストラ鑑賞会を、総合文化芸術センター関西医大 大ホールで実施しました。小学校でのアウトリーチ体験を経て、中学校在学中にホールで本格的なプロ集団の公演を体験することで、文化芸術の迫力や素晴らしさに直に触れる機会となりました。</p> <p>⑤ 公募で選ばれた市内在住・在学の中高生が、大阪フィルハーモニー交響楽団メンバー等から全10回の音楽指導を受け、総合文化芸術センター関西医大 大ホールでプロの指導者と共演し演奏会を開催しました。吹奏楽に関心のある子どもたちの演奏技術を高めるとともに、同センターでの発表機会の創出やプロとの交流の場をもつことにより、子どもたちの夢を育み、将来の文化芸術を担う人材育成につなげることができました。</p>
--	--

重点的な取り組み：文化財の保存と活用

◆百済寺跡の整備と歴史遺産の魅力発信

歴史的建造物である築地塀の復元工事に着手します。市内大学生の協力のもとAR映像(右図)などICT技術を活用した魅力発信にも取り組みます。市内の貴重な歴史文化遺産や資料館についても、市内事業者と連携したツーリズム開発や駅舎へのチラシ配架など公民連携による魅力発信について検討を進めます。



◆文化財を身近に感じられる啓発事業

出土した土器に直接触れられる出土遺物復元作業体験を実施するとともに、市民歴史講座・歴史ウォーク・各種刊行物の発行など普及・啓発に取り組みます。発掘した遺物や遺構は市民が気軽に見られるよう、輝きプラザ2階展示ルームなどで積極的に展示・紹介します。

<p>実績</p>	<p>① 築地塀復元工事の着手やバージョンアップしたAR映像を活用した映像体験イベント及び鋳物製造の歴史を学ぶ「くらわんか鋳物ツーリズム」を実施。 <参加人数：80人></p> <p>② 実際の出土遺物を使った復元記録作業体験や、市民歴史講座・歴史ウォークの実施<参加人数：36人>、各種刊行物や常設展などで文化財の普及啓発。</p>
<p>説明</p>	<p>① 特別史跡百済寺跡の再整備事業では歴史的建造物である築地塀の復元工事を令和5年度中の完成に向け、令和4年11月工事に着手し、令和5年度には工事の進捗に合わせて見学会を開催する予定です。また、バージョンアップしたAR映像とともに遺跡発掘ゲームを加えた体験イベントを実施し、参加者から好評を得ました。今後、他の紹介や古い民具の学習などにおいてAR映像の活用の幅を広げていきます。</p> <p>旧田中家鋳物民俗資料館と市内の鋳物工場を巡る「くらわんか鋳物ツーリズム」を実施し、子どもたちに鋳物製造の歴史学習の場を提供しました。</p>

	<p>② 文化財の魅力を体感していただくよう、実際に出土した遺物の復元記録作業の体験や、発掘現場での説明会、市民歴史講座や歴史ウォーク、枚方宿での「枚方宿まちかど歴史展示」などを実施しました。令和5年度は「枚方宿まちかど歴史展示」の協力店舗を増やす予定。引き続き、文化財の魅力を伝えるための多様な普及・啓発活動に取り組みます。</p>
--	---

重点的な取り組み：スポーツ施策の充実

◆あらゆる分野と連携した生涯スポーツの推進

ウィルチェア（車いす）スポーツなどパラスポーツの体験会とパラアスリートの講演会を組み合わせたイベントを開催します（市制施行75周年記念事業）。あらゆる世代がスポーツに親しめる機会の充実や、健康寿命の延伸を目指す生涯スポーツの推進の観点から、文化・観光・健康福祉の分野とも連携を深めます。

◆地元スポーツチームとの連携

枚方が本拠地のチーム「パナソニックパンサーズ」「FCティアモ枚方」の知名度アップへ、地域と交流できる機会を増やします。応援グッズの作成や情報発信の強化など「観るスポーツ」の促進につなげます。



◆野外活動センターの活性化

東部地域の活性化にもつなげるため、公民連携プラットフォームを活用した民間事業者との連携をより進めるとともに、市民ニーズを把握し施設的环境整備をはじめソフト事業と両輪で活性化の検討を進めます。

<p>実績</p>	<p>① ウィルチェアスポーツなどの体験会やパラアスリートの講演会を組み合わせたスポーツチャレンジフェスタを開催。 <参加人数：149人></p> <p>② 地元スポーツチームと連携し、公式試合への市民の無料招待や、応援のぼりの作成など、知名度を高める取り組みを推進</p> <p>③ 野外活動センターの活性化につなげるため公民連携プラットフォームによる提案事業を実施。 <実現件数：5件></p>
<p>説明</p>	<p>① 令和4年度は、令和5年2月11日（祝土）に、こども夢基金事業として「スポーツチャレンジフェスタ」をひらかたパークイベントホールⅠで開催、車いすソフトボールやシッティングバレーボールの体験会に加え、パラリンピアンである中西麻耶選手の講演会を実施し、149人の参加がありました。</p> <p>「スポーツチャレンジフェスタ」は、多様性を理解することを初め、体を動かすことや夢を持つ大切さなどを学ぶことを目的としたもので、子ども未来部や健康福祉部と連携して実施し、こども夢基金事業である「HIRAKATA 子どもすまいるプロジェクト」と同時開催（イベントホールⅡ）。</p> <p>② 令和4年度は、本市との連携協定に基づく取り組みとして、パナソニックパンサーズとFCティアモ枚方による、市民を対象とした公式試合への無料招待を実施し、ティアモ枚方では計4日間の市民応援デー、パンサーズでは計6日間の市民応援デーがあり、多くの市民が招待されるなどしました。</p>

	<p>また、パンサーズは、小中学校、幼稚園、保育所等との交流事業を 38 回実施し、トップチームとの触れ合いを通じて、子どもたちがスポーツを楽しむ機会を創出しました。ティアモ枚方でも、サッカー教室や、公開練習イベントを実施し、こうした両チームとの連携事業により、チームの知名度アップに取組みました。</p> <p>さらに、両チームを応援するのぼりを作成し、「観るスポーツ」の促進につなげています。</p> <p>③ 令和 4 年度、野外活動センターでは、アウトドアクッキング教室や、国見山デイリーハイキングのほか、公民連携プラットフォームを活用したドローン操縦体験会や小学生を対象にしたアウトドア体験ができる 1 泊 2 日のキャンプイベントなど、利用者の多様なニーズに応えるため、さまざまな事業に取り組みました。</p> <p>10 月 23 日に開催したキャンプフェスティバルでは約 840 名が来場し、ツリークライミング体験のほか、ミニプラネタリウムや移動図書館など、新規顧客の獲得につながるイベントとなりました。</p> <p>また、冬季の利用促進を図るため、令和 3 年度から引き続き、検証の範囲を拡大し、冬季利用を試行的に実施しました。全体の利用率は 73%以上、1,400 名以上の利用があり、冬季においても一定の利用ニーズがあることが確認できています。</p>
--	--

重点的な取り組み： 農業の活性化と里山の保全・活用

◆特産物の研究・6次産業化の推進

農業従事者や摂南大学農学部、企業等と連携し、消費者ニーズに対応した「6次産業化」および農業特産物の研究に取り組みます。商品化や販路拡大といった農業者の経営安定化に向けて取り組み、遊休農地の解消や農業振興を図ります。

◆東部地域を観光と産業の視点で活性化

地元区、ボランティア団体等と連携して森林でのセラピーやヨガ、栽培体験など新たなニーズを掘り出し取り組みを進めます。農業体験や地元農畜産物の販売、収穫野菜の調理などのグリーンツーリズムを検討します。



◆里山の自然環境を守る

森林ボランティアをはじめとした新たな担い手を発掘するとともに企業の CSR 活動を支援。木材利用の促進のために木材利用基本方針を策定し、森林環境譲与税を有効活用しながら計画的な森林整備に取り組みます。

<p>実績</p>	<p>① 摂南大学農学部との連携で商品化した「すももちゃんサイダー」の増産。＜5,000 本＞</p> <p>② 摂南大学農学部と連携して、すももの試験栽培と栽培管理の実施。</p>
------------------	---

	<p>③ 市内農業者の新たな枚方産農作物の商品開発と販売の実施。</p> <p>④ NPO 団体等と連携して、森林ヨガの実施に向けた調整の実施。</p> <p>⑤ 小学5年生を中心に、食農体験学習支援事業の実施。〈8校・1,764人〉</p> <p>⑥ ふれあい朝市として、地元農産物の販売の実施。</p> <p>⑦ 枚方市木材利用基本方針の策定。</p> <p>⑧ 森林整備方針に基づいた森林整備の実施。〈2.5ha〉</p>
<p>説 明</p>	<p>① 摂南大学農学部が収穫した杉地域のすももを使用したサイダーを5,000本増産しました。令和5年度はアンケート結果を踏まえて、より消費者のニーズに沿ったリニューアルを図ることとしています。</p> <p>② 摂南大学農学部の教授と学生等も参加して、すもも苗木21本（貴陽12本、太陽9本）の試験栽培及び栽培管理を行いました。</p> <p>③ 穂谷地区の農業者と事業者をコーディネートし、温州みかんと文旦を使用したチョコレート6個入り（200セット）を令和5年2月に枚方T-SITEで販売しました。</p> <p>④ NPO 団体と連携して、令和5年度の森林ヨガ実施に向けた調整を行いました。</p> <p>⑤ 市内農業者の協力を得て、市内小学校8校1,764人に対して、播種・植付け・収穫等の農業体験を実施しました。</p> <p>⑥ ふれあい朝市として、マスカット市（8月）及び地元農産物を農業者が直接販売する農業まつり及び年末直販会（12月）を実施しました。</p> <p>⑦ 関係部署と協議の上、枚方市木材利用基本方針を令和4年10月に策定しました。</p> <p>⑧ 森林整備方針に基づき、人々の暮らしに隣接する本市域の森林を健康な森として再生させるため、早急に対策が必要な拡大竹林の間伐（2.5ha）を行いました。</p>

重点的な取り組み：創業支援の充実・強化

◆地域活性化支援センター「インキュベートルーム」利用入居要件を見直し

「起業後3年未満」に緩和し、特定創業支援事業の認定を受けた場合の入居審査を省略するなどより利用しやすい環境を整備します。関係機関で構成する「創業支援事業連絡会」との連携強化も図ります。

◆NICT（国立研究法人情報通信研究機構）との連携

事業者や大学、学生等の新分野への進出を支援します。

◆「就職氷河期世代」への奨学金支援

安定した就労を支援し人材確保につなげるため、多くの市内中小企業で課題となっている人材不足に対応することを目的に実施します。



▲「きらら創業実践塾」卒業生の店舗

<p>実績</p>	<p>① インキュベートルーム利用入居要件の緩和。創業支援事業連絡会を6回開催。</p> <p>② NICTとの連携を図り、新産業創出のための実施検討や産学公連携に向けた取組を検討。</p> <p>③ 奨学金返還支援補助金の創設。</p>
<p>説明</p>	<p>① 地域活性化支援センターにおける利用環境の充実に向けて令和4年度よりインキュベートルームの入居要件を緩和し、選考を実施しました。</p> <p>要件の見直しにより、入居審査を経ずにインキュベートルームの使用許可を得た事業者が1件実績として挙げられ、その運用効果が認められました。引き続き、事業者が利用しやすい環境の整備を進めます。</p> <p>また、創業支援に取り組む関係機関で構成する創業支援事業連絡会では、事業承継セミナーや労務環境改善セミナーの実施のほか、同連絡会を6回実施し、各関係機関と創業支援にかかる情報共有を行うことで、連携強化を図りました。</p> <p>② NICTとのミーティングを合計17回実施し、新産業創出のための実施検討や産学公連携に向けての課題整理を行いました。様々な検討の中で若手起業家に特化した支援の創設が必要との結論に至ったことから、令和5年度から実施する「若手起業家支援事業」の創設に繋がりました。</p> <p>また、12月3日に開催した枚方産学公連携フォーラム2022において、NICTが開発を進める「みなっば」によるバーチャル展示のモデルケースや、産学公連携事例を発表しました。</p> <p>③ 就職氷河期世代の安定した就労と市内中小企業等の人材確保を支援するため創設した「奨学金返還支援補助金」については、要件に合致する申請がなかったことから制度の見直しを行い、対象要件を緩和しました。中小企業に加え、社会福祉法人や医療法人等の法人も対象としたほか、就労期間については市内事業所で就労してから6カ月以上5年以内としていたところを10年以内に延長しました。</p>